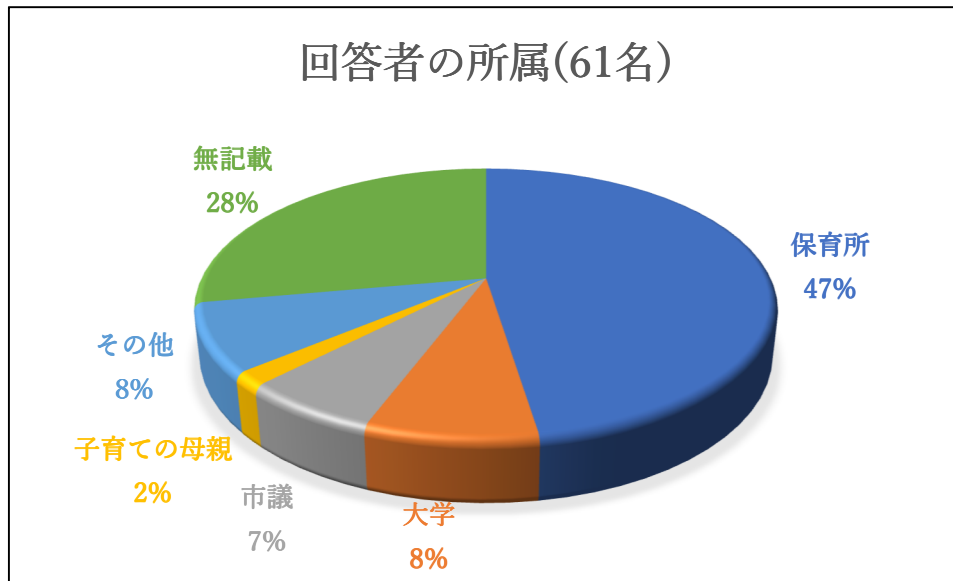


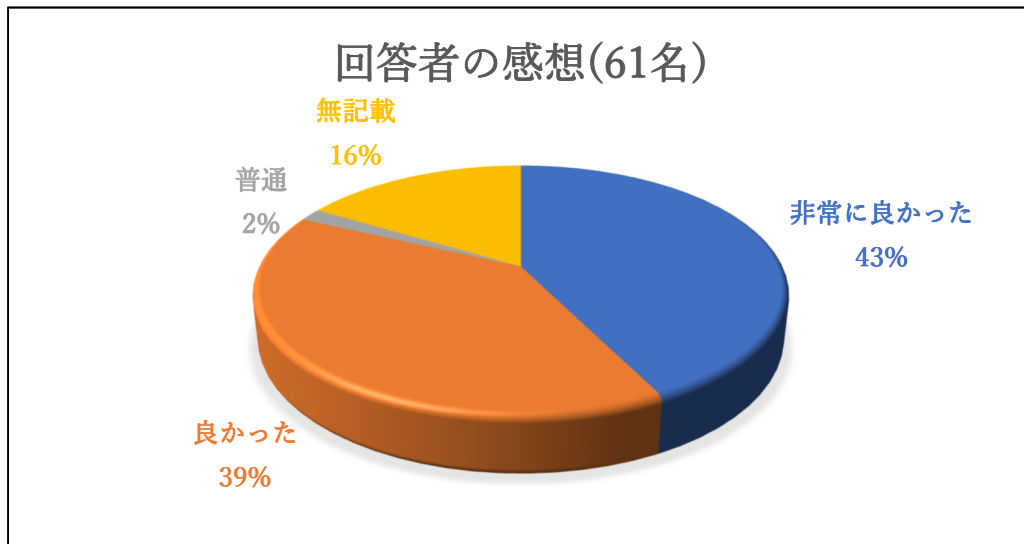
ネウボラ講演会アンケート結果

1. 所属



- ・合計で 61 名の方々からアンケートの回答をいただいたが、これは参加者の約 75%にあたる。
- ・回答者の約半数は、日頃幼児やその保護者との関わりの深い保育士さんや保育所の関係者が占める。
- ・大学は、学生と大学の関係者を含む。
- ・市議は、大和市と調布市の市会議員の方々。

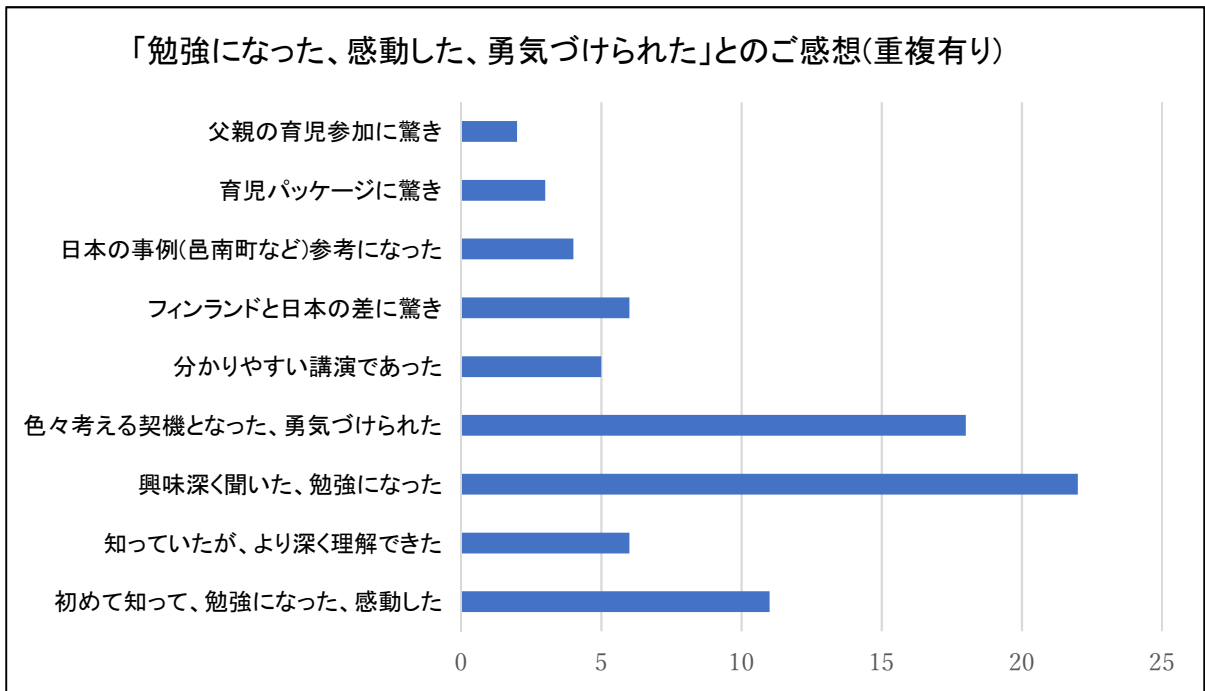
2. 講演会の内容に対する感想(選択)



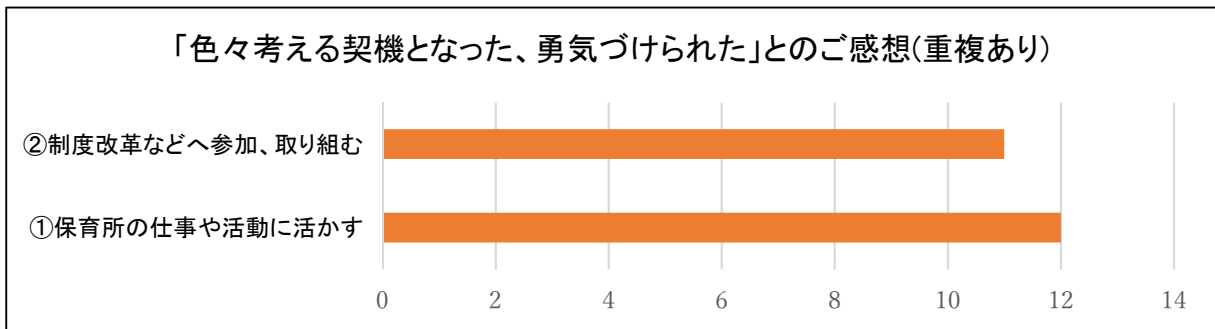
- ・無記載には、記載漏れと思われるケースもあり、自由記載の内容からは、概ね、好印象と推察できる。

### 3. 感想・意見(自由記載)

#### (1) 勉強になった、感動した、勇気づけられた



「勉強になった、感動した、勇気づけられた」とのご感想を記載された方は、54名。このうち、ネウボラを初めて知ったと記載された方は11名で、全て、フィンランドの出産・子育ての支援が手厚いことに驚いた、勉強になったとのご感想。また、6名の方は、ネウボラは知っていたが、今回の講演会で詳しく聞いて、勉強になったとのこと。こうした17名以外の方々も、ビジュアルで分かりやすい講演であった、詳しいことが理解できた、日本の事例(邑南町など)なども参考になったなどのご感想を寄せられた。また、今後、色々なことを考える契機となった、勇気づけられたとのご感想は、18名に上った。



具体的なお感想の主なものは、次の通り。

#### ① 保育所の仕事や活動に活かす

- 「自園で、…母を支える講座をしている。…北方さんのお話に力を得た。」(保育所関係者)
- 「ネウボラの詳細を知ることができ、子どもや家族に対してできることが沢山あると勇気づけられた。保育士として何が出来るかを考えさせられた。」(保育所関係者)
- 「ネウボラを知って数年、…草の根のように広まっていると改めて感じた。保育園も支援の一つとして何が出来るか、課題を与えていただいた。」(保育所関係者)
- 「(産後ドウーラをしているが、) ネウボラにもそのような役割があるのに共感した。…私の小さな

力でも地域の妊産婦・子どもたちの力になればと考えている。」(保育所関係者)

●「(調布ネウボラの提案を受けて)保育園も地域のために何かできることがあるのではないかと今後考えていきたい。…(自らも)子供たちが自らの力で成長していく豊かな環境を提供していく大きな輪の一部(一粒)でありたい。」(保育所関係者)

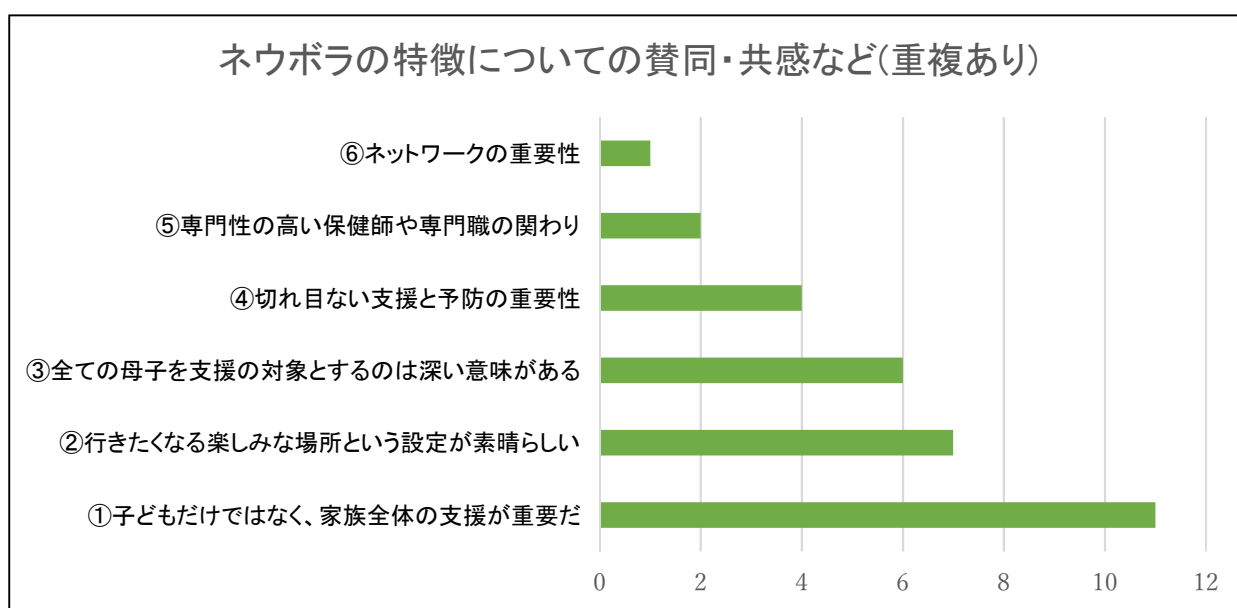
② 制度改革などへ参加、取り組む

●「行政に自分の声をあげて動いてもらえるよう、自分もそうした(活動)に参加していきたい。」(保育所関係者)

●「フィンランドの子育て環境を知り、調布市の環境を考える機会となった。」(育休中の母親)

●「他市から参加。(調布ネウボラを)自分の市でもやってみようとなんな気持ちになりました。」(所属不明)

(2) ネウボラの特徴への賛同・共感など



24 名の方から、ネウボラの特徴への賛同し、共感するとのご意見が寄せられました。主なものは、次の通り。

① 子どもだけではなく、家族全体の支援が重要だ

●「(ネウボラは)一体的で多様なサービスで専門家と親を繋げる、子育ての親からすれば心強い「仲間」のような存在。」(保育所関係者)

●「支援方法が参考になった。広範囲の把握という意識で個々の家庭に寄り添いたいと思った。「悩んでいるのは当たり前」の思いで、ご家族の声に耳を傾けたい。」(保育所関係者)

●「「どこがすごいのか」という気持ちで参加した。子どもは勿論だが、家庭の支援の必要性を改めて痛感。」(保育所関係者)

●「(調布ネウボラのように)保護者が支援される機会が増えればよいと思った。」(保育所関係者)

●「保健師さんが、子どもだけでなく、家族全体をみていくのは、心強い。」(所属不明)

② 行きたくなる楽しい場所という設定が素晴らしい

●「今の保健所や健診センターは子どもが楽しみに行く場所ではないような印象があるが、「行きたくなる楽しい場所」という環境設定は大切と感じた。」(保育所関係者)

●「日本では、保健所が乳児を持つ母親に馴染めない場所のように感じた。」(保育所関係者)

●「何かあった時にスムーズに母親が相談に行けたり、子育てもしやすい環境と感じた。」(保育所関係者)

●「子どもが行きたくなるような場所」になるように工夫がなされていると感じた。」(所属不明)

③ 全ての母子を支援の対象とするのは深い意味がある

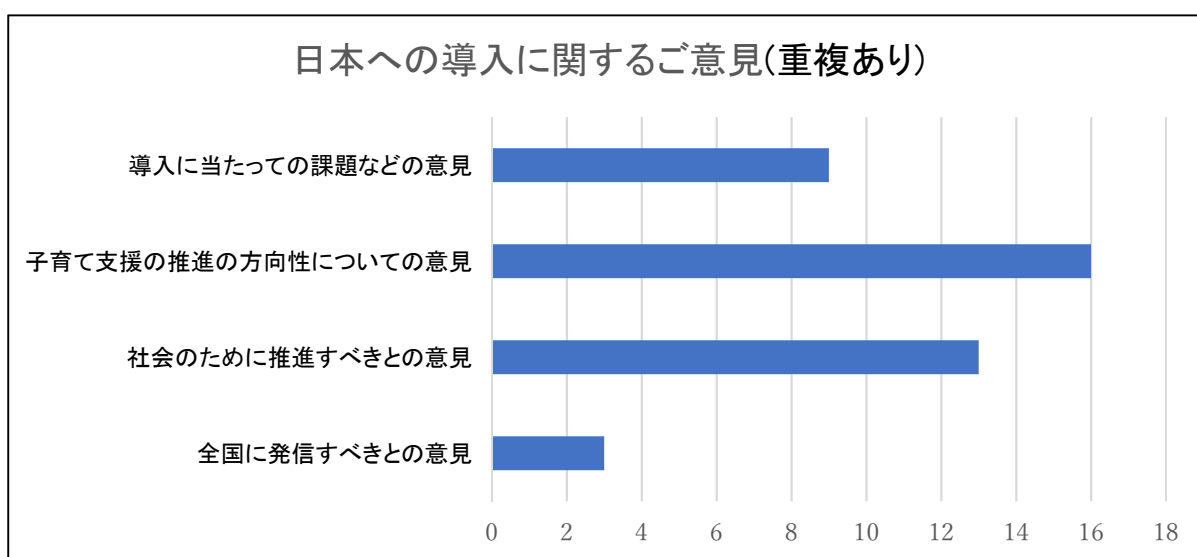
●「支援が本当に必要な人には…探し出すのではなく…」という言葉に共感・納得。」(保育所関係者)

●「母親の声なき声を聞くことが大事。」(保育所関係者)

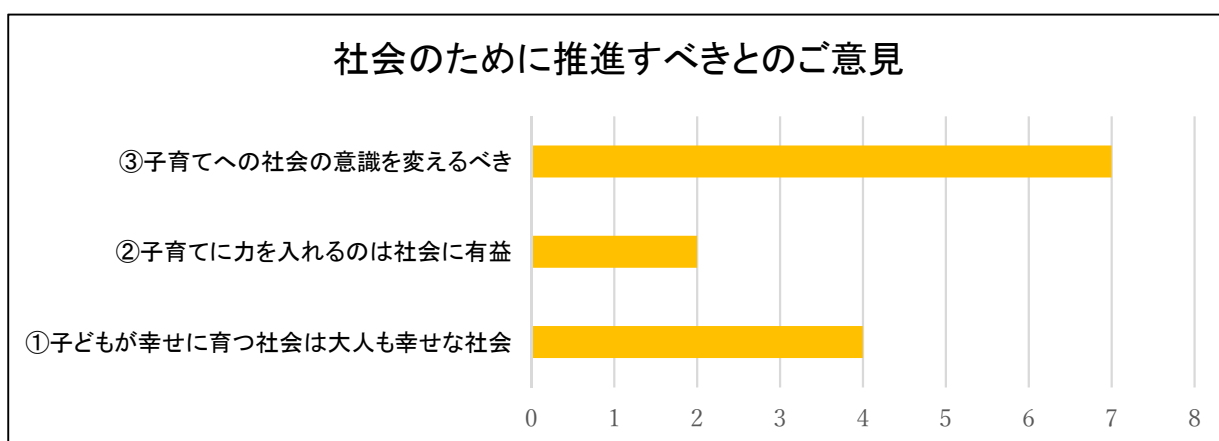
●「みんなを支援することで、本当に必要な人に届かせるという言葉にはっとさせられた。」(保育所関係者)

●「「全ての人を対象の事業とすることで本当に困っている人が分かる」とのお話し、共感しました。」(市議)

(3) **日本への導入に関するご意見**



ネウボラを日本に導入する社会的な意味や、子育て支援の推進のあるべき姿、導入に当たっての課題など、全国の人々にしてもらいたいのご指摘も含めて、40名の方からご意見をいただいた。

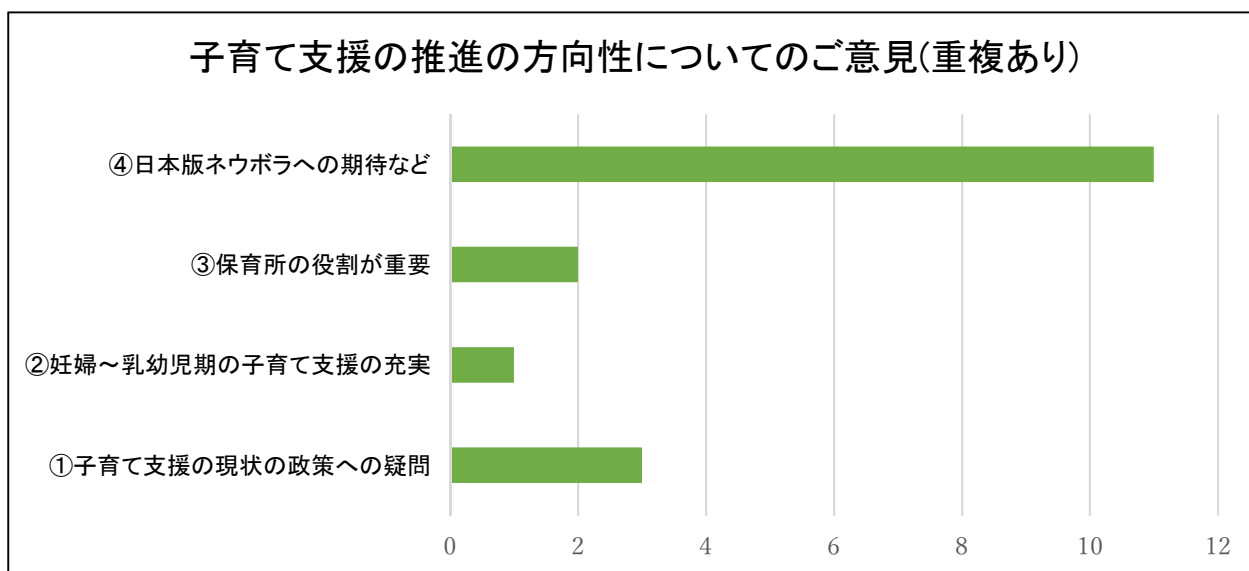


子育てと社会との関係が大事であると答えられた方は、13名にのぼる。主なご意見は、次の通り。

① 子どもが幸せに育つ社会は大人も幸せな社会

●「(フィンランドは)大人にとって生活しやすい環境をつくっていると感じた。」(保育所関係者)

- 「子どもが幸せに育つ社会は大人も幸せな社会、日本も見習うべき。」(市議)
- ② 子育てに力を入れるのは社会にとっても有益
  - 「子育て支援にお金を惜しめばもっと大きな損失に。」(保育所関係者)
  - 「子育てへの基本的な考え方など、やはり北欧は世界のトップだ。日本は大学の予算が数千万円単位で減らされている。憂うべき現状。」(その他)
- ③ 子育てへの社会の意識を変えるべき
  - 「子どもをよくするには、家族の支援、家族をよくするには、社会全体の変革も必要と感じた。」(保育所関係者)
  - 「世界が大きく変化する中で、私たちは意識を大きく変えなければならない。」(保育所関係者)
  - 「現在の日本に、もっと柔らかい考えを入れていけたらと切に思う。」(保育所関係者)
  - 「日本の福祉の申請主義には、自己責任の考えがあり、大きく考えを変えられるようにしたい。」(市議)
  - 「子どもは、親だけでなく社会で育てるものと思った。」(所属不明)



日本が子育て支援で考えるべきこととして、16 人の方から、様々なご意見をいただいた。主なご意見は、次の通り。

- ① 子育て支援の現状の政策への疑問
  - 「0 歳からの保育、待機児童対策が唱えられ、親は、土日の休みに子どもの成長を伝えられる、そうした子育てに疑問を持つ。子育てを楽しみながら生活も維持できる「ワークライフバランス」の確立は日本でもそうあるべきと、意を強くした。」(市議)
  - 「母親のリフレッシュのための施設も増えているが、それよりも、家庭で母親が楽しく安心して子育てできるような支援が必要。」(保育所関係者)
  - 「子育て支援で、行政のサービス、考えている事と利用者の感覚には大きなズレがある。現在、育休中だが、共働きの家庭にとって、近所に、子どもが過ごせる仲良しのおばあちゃんの家みたいな場所があれば良い。」(育休中の母親)
- ② 妊婦～乳幼児期の子育て支援の充実
  - 「子育て世代包括支援センターが設置される中で、ニューボラに近い支援体制やネットワークの強化

で、まずは、妊婦～乳幼児期の子育て支援体制を充実させたい。子育て家庭への支援のあり方は意識したい。一方的な支援ではなく、各家庭のエンパワーメントが高まるような支援でありたい。」(市議)

③ 保育所の役割が重要

●「親子の支援に保育所が重要。誰でも保育所が利用できるようなになればいい。」(保育所関係者)

④ 日本版ネウボラへの期待など

●「(ワンストップの)ネウボラを取り入れることで、子育てがシンプルになればよい。」(保育所関係者)

●「(みんなまるごと支援、もらさずにネットワークの網の目を張り巡らせる)調布ネウボラのキックオフに立ち会えたならうれしく思う。」(所属不明)

●「・・・特に DV については、日本でも切れ目のない支援について考える必要がある。・・・調布でのネウボラ実現に向けての働きかけがあることを知り、より幅広い地域で、そのような取り組みに目を向けられるようになると良いと感じた。」(保育所関係者)

●「調布ネウボラは、今の各施設や人材を活用・連携してぜひ実現して欲しい。予防の重要性はその通り。」(所属不明)

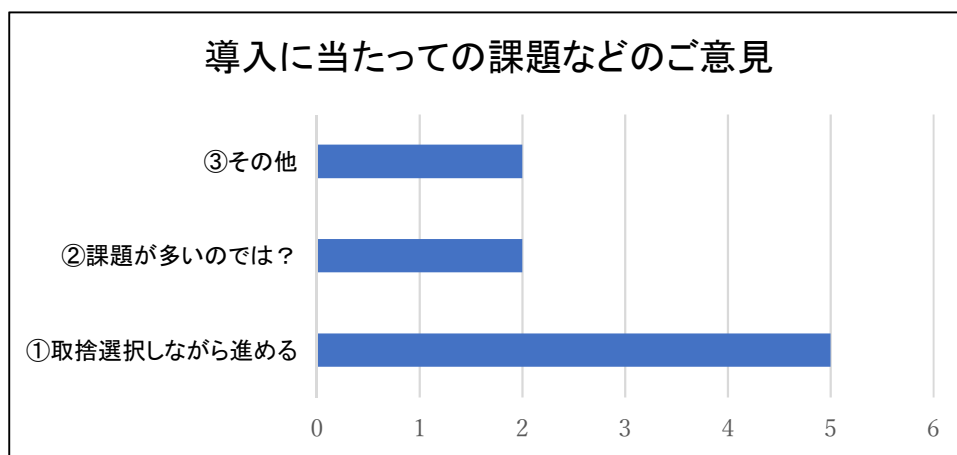
●「(調布ネウボラの実現が)実現できるように一緒に頑張ります。」(市議)

●「調布ネウボラの提案は、興味深く聞いた。(前進のための一助になりたい)」(保育所関係者)

●「調布市の調布ネウボラに期待。」(保育所関係者)

●「キーツの活動も「ほー」と思った。」(所属不明)

●「子育て拠点に関心があるが、ボランティアへの依存や母親オンリーの対応(男性の育休取得は見込めない)にならざるを得ないのでと心配」(大学)



9 人の方から、ネウボラを導入するに当たっての課題などご意見をいただいた。

① 取捨選択しながら進める

●「難しいところもあるが、良い所は取り入れて改善していく力になりたい。」(市議)

●「日本で真似は難しいが、良いやり方をみつけていけばいい。」(所属不明)

●「大都市では難しいとしても、小さな自治体でやってみては。」(保育所関係者)

●「フィンランドのネウボラの真似したい点(就業形態や育児への認識)と、反面教師にしたい点(ベビーカーの話題)を感じた。」(大学)

② 課題が多いのでは?

●「(日本でもあればいいが)導入には、色々な課題があることにも気付かされた。」(保育所関係者)

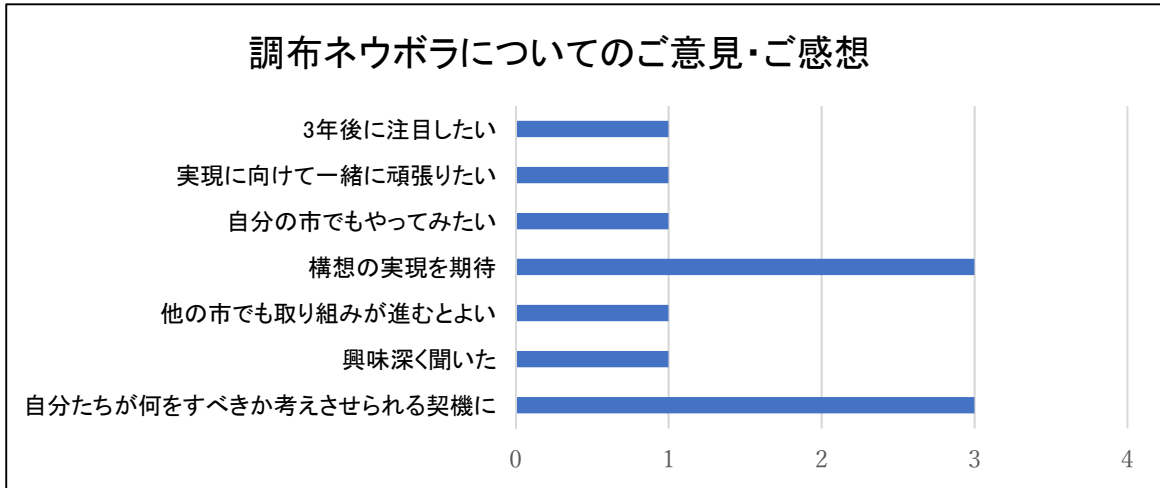
●「日本でどのようにすべきか等を知りたかった。」(所属不明)

③ その他

●「20 年後にはAIとロボット化で今の仕事の半分がなくなる。どのように子どもを育て、対応するのがとても心配。」(所属不明)

●「こうした仕組みがあるのに、なぜ、虐待があるのか、不幸があるのか、と考えさせられた。」(大学)

(4) 調布ネウボラについてのご意見・ご感想



調布ネウボラの構想については、これまでご紹介したものを含めて、合計で 11 人の方から、ご意見・ご感想をいただいた。今後、現在の子育て支援の状況を理解することで、自分たちが何をすべきかを考えさせられる契機になったというご意見から、調布市以外も含めて、構想が実現するのを期待する、自分も実現に向けて頑張りたいなどの激励のお言葉があった。

4. 今後の学びたいテーマ

18 人の方から、以下のようなテーマについて、学びたい、知りたいとのご意見があった。

区分	学びたいテーマ
ネウボラについてさらに知りたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネウボラに関わっているスタッフの気持ちや理念</li> <li>・ネウボラを取り巻く環境、フィンランドの国民性、北欧文化など</li> <li>・専門職のスキルアップの方法</li> </ul>
保育や教育に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北欧の保育</li> <li>・幼児の環境(保育園、街づくり)</li> <li>・野外教育、自然体験</li> <li>・日本の教育</li> <li>・インクルーシブ教育</li> <li>・あそびの実践について</li> </ul>
母親への支援に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産後うつ、マタニティブルーについて</li> <li>・子育てをする親の心理(虐待を含め)</li> <li>・発達障害のある子の保護者への支援の仕方</li> </ul>
日本への導入に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外や日本でも進んでいるところ(の事例)</li> <li>・官民の協働による子育て支援</li> <li>・北欧の政策導入に当たって懸念されること(個々人のマインドセット、躰、教育)</li> </ul>
その他全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・保健関係の分野と学校や社会教育の関わり、専門職の養成を含めた海外の動向、アジアの動向や中高生の支援など</li> <li>・サステナブルな社会、環境、共生社会など</li> <li>・これからの子どもたちをめぐる様々なこと(保育、子育て支援等を含む)</li> </ul>

以上